

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2019年度 助成者)

作成日 2019年 8月 26日

氏名 (フリガナ)	木下智貴 (きのしたともき)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2019年8月12日 (月) ~ 8月17日 (土)
大学名	福井大学医学部医学科
学年	5回生

今回のハワイ医学英語研修は短期間でしたが、密度の高い研修となりました。主にやったことは①PBL②病院見学③history-taking と case presentation④講師陣からの special lecture です。それぞれについて記述していきます。

①PBL (problem based learning) :ハワイ大学医学部の学生のカリキュラムを拝見しましたが、座学形式の授業はほとんどなく、主に PBL 形式で学習していました。具体的には模擬患者さんに病歴聴取を行い、そこで発生した疑問を自ら調べて解決する勉強方法です。病気の症状・検査所見・病態生理学・治療法など、疑問に思ったことは何でも調べます。今回の研修でも参加学生でグループを作り、PBL 形式の学習をしました。答えが分からない患者病歴から、考えられる病名や必要な検査項目・除外診断に必要な所見などを議論しました。鑑別診断を挙げて議論する中で大事なのは、詳細な病気の理解と論理的な説明能力だと感じました。筆記試験で合格するための、“キーワード勉強”では歯が立ちません。これからの勉強の指針にしようと思いました。

②病院見学 : St Luke's Clinic と Kuakini Medical Center の訪問をしました。St Luke's Clinic では小林先生が運営しているクリニックです。クリニックの見学をした後で、小林先生からアメリカの医療についての講演を受けました。Kuakini Medical Center では ICU と介護病棟の見学をしました。病院見学で思ったことは、医療職の種類が多いことです。各々がスペシャリストとなる細分化された医療は、日本の医療構造とは異なりました。医者が器用に何でもこなせる日本の医者もカッコイイですが、医者の仕事だけに集中できる環境が確立しているアメリカも働きやすそうだと思います。他国の病院を見学することで、日本の医療を捉えなおすいい機会となりました。

③history-taking と case-presentation:この二つが今回のハワイ研修の目玉であり、最も時間を費やしました。午前中は参加学生とペアを組み、history-taking を行います。その後、グループの前でプレゼンを行い、他学生・指導教官からフィードバックをもらいました。夜はハワイ大学医学部に移動し、ハワイ大学の医学生から history-taking を行い現地の指導医に個別にプレゼンを行い、フィードバック貰いました。初めは、どのように問診したらよいか・どう発表すればよいか分かりませんでした。しかし、先生からの丁寧なフィードバックを反映させ、多くの練習を積むことで能力の向上を日々実感することができました。最終日には、自分なりの型が完成し、自信をもって発表することができるようになりました。

④講師陣からの special lecture : 現地の指導医の先生方や、日本から渡米してハワイで医者をしている先生方からのレクチャーを受けました。将来的に渡米を考えているので、自分の目標を達成している方々のお話は刺激的なものでした。レクチャーの後に個人的に勉強相談もさせて頂き、親身にアドバイスを頂きました。渡米を考えると、一番大事なのは人脈を広げることです。今回の研修で知り合った方々の助けを借りながら、これからの医者人生を充実させていこうと思います。

日数的には短い研修でしたが、とても内容の濃い充実した5日間でした。来年のアメリカ臨床実習の練習としても、アメリカ臨床留学の第一歩としても貴重な研修となりました。今回のプログラムに関係したすべての方に感謝申し上げます。